

5 災害調査 岩手山雪崩調査 (2011.10.9)

研究代表者	雪氷防災：阿部 修	実施期間	平成 23 年度
研究参加者	雪氷防災：小杉健二、森林総合研究所：竹内由香里、北東北エリア雪崩事故防止研究会：平山順子		

[目的]

発生日時は不明だが、岩手山に 2010/11 年冬期に発生した大規模雪崩の跡が見つかったという情報が寄せられた。本調査の目的は、次の冬の到来前に調査を実施し、雪崩発生の要因等を明らかにし、雪崩災害防止に資することである。

[実施内容]

雪崩斜面を一望できる標高 1700m 付近まで登攀した。ほぼ同時期に起こったと見られる 2 つの雪崩による倒木地帯が個々に存在することがわかった (図 1、以降雪崩 A, B と呼ぶ)。そのうちの登山道に近い比較的小規模の雪崩 A を重点的に調査した (写真 1)。倒木範囲の地理的位置を GPS で測定するとともに、樹木の年輪を写真撮影し樹齢を測定した。



図 1 推定雪崩走路

写真 1 雪崩 A による倒木範囲 (図 1 の展望箇所より)

[成果と効果]

当初、全層雪崩と思われたが、地元山岳ガイドより提供された写真から判断すると、2 つの雪崩はいずれも 2011 年 1 月 27 日にはすでに発生していたことから、年末年始の大雪の際に発生した表層雪崩である可能性が高い。今回調査した雪崩 A については、全長 645m、最大幅 46.5m、見通し角 24° であった。倒木はダケカンバとトドマツの混相林で、直径は 20~30cm、トドマツの樹齢は 120~150 年であった。すなわち、100 年以上の間、発生しなかったまれにみる雪崩であったといえる。雪崩 B はさらに大規模で 2 ないし 3 つに分かれた痕跡が見られた。

[防災行政等への貢献]

このような大規模雪崩はまれであることから、今回の調査資料は貴重である。今後、より詳細な調査を実施し、樹林の雪崩制御効果などについて解析する必要がある。